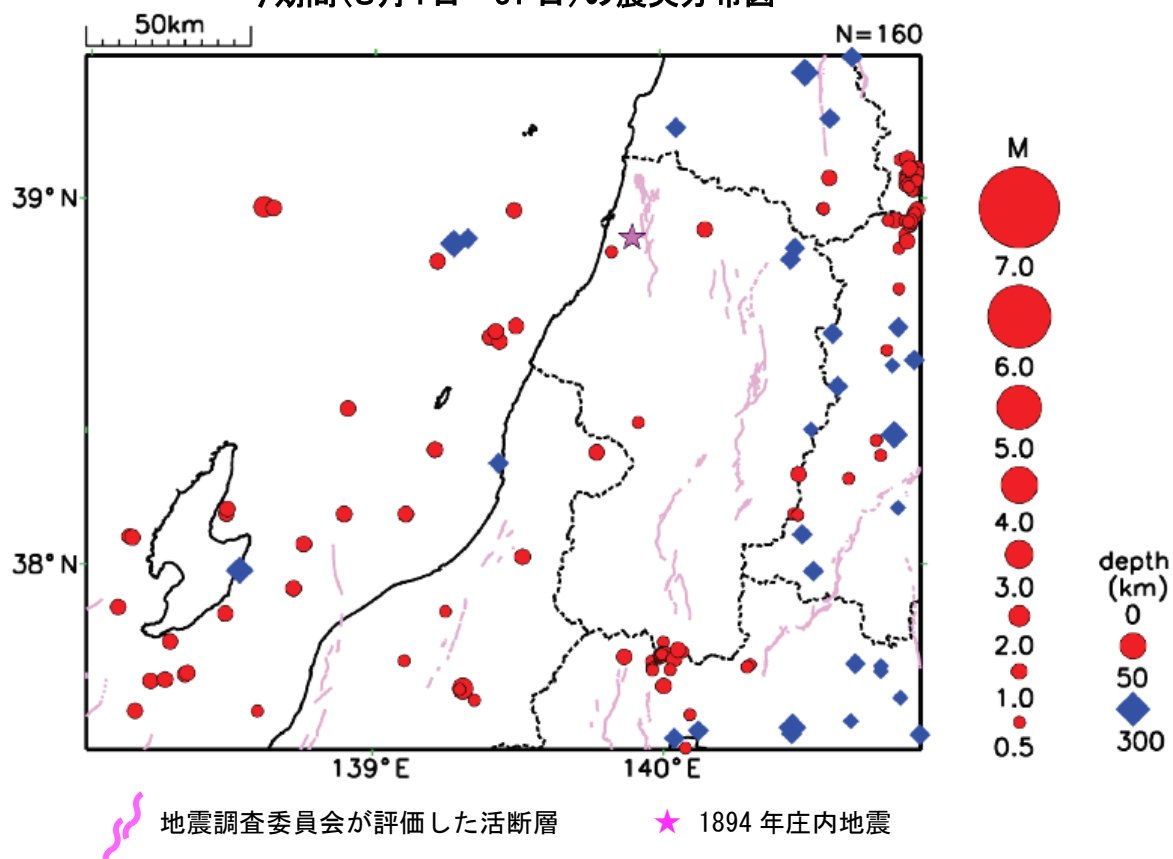


山形県月間地震概況（2025 年 8 月）

山形地方気象台

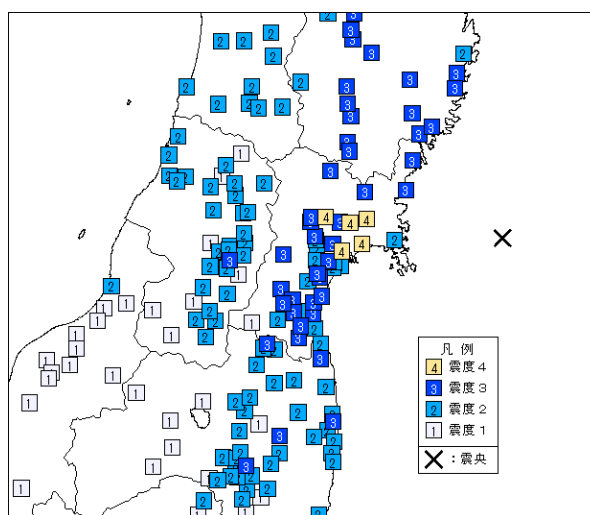
今期間(8月1日～31 日)の震央分布図



【概況】

この期間、山形県とその周辺（上図の範囲内）で観測した地震は 160 回であった。また期間中に県内で震度1以上を観測した地震は5回（前期間4回）であった。

30 日 01 時 29 分に宮城県沖の深さ 41km で M5.8 の地震が発生し、宮城県で震度4を観測した他、東北地方、関東地方などで震度3～1を観測した。山形県では中山町で震度3を観測した他、山形県の広い範囲で震度2～1を観測した（右図）。この地震は太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。今回の地震の震央周辺では「1978 年宮城県沖地震」が発生している。

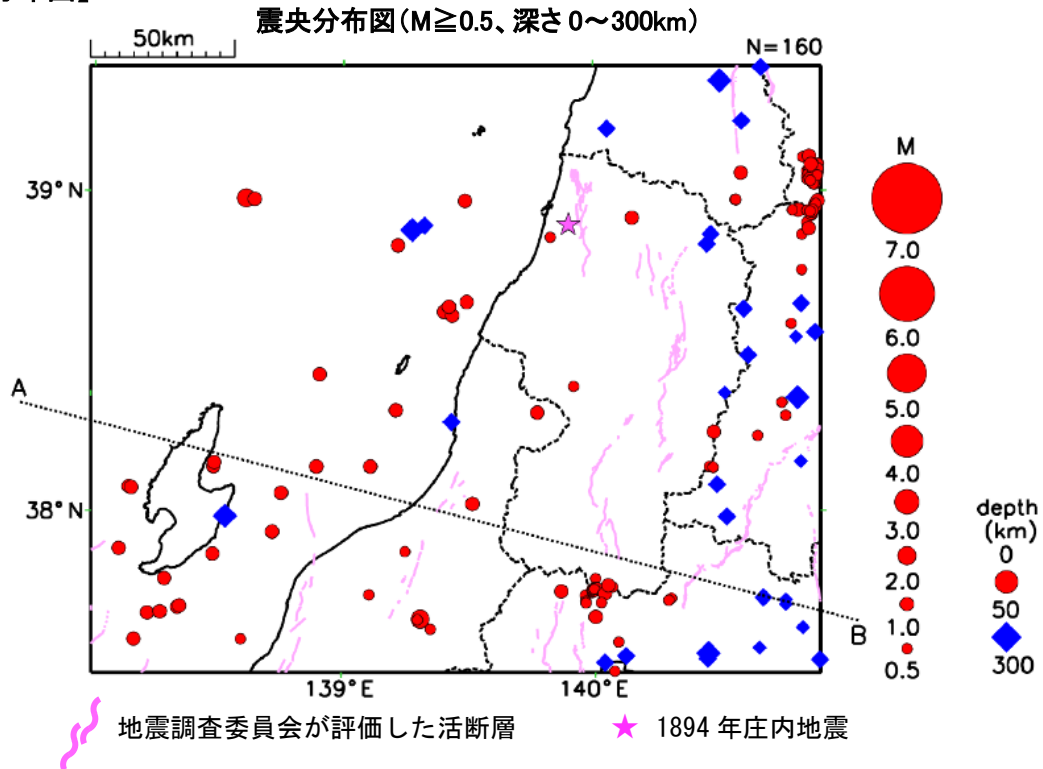


30 日 01 時 29 分に宮城県沖で発生した地震(M5.8)の震央(X)と市町村別震度

※本資料では、地震の規模を示すマグニチュードを「M」として表記している。

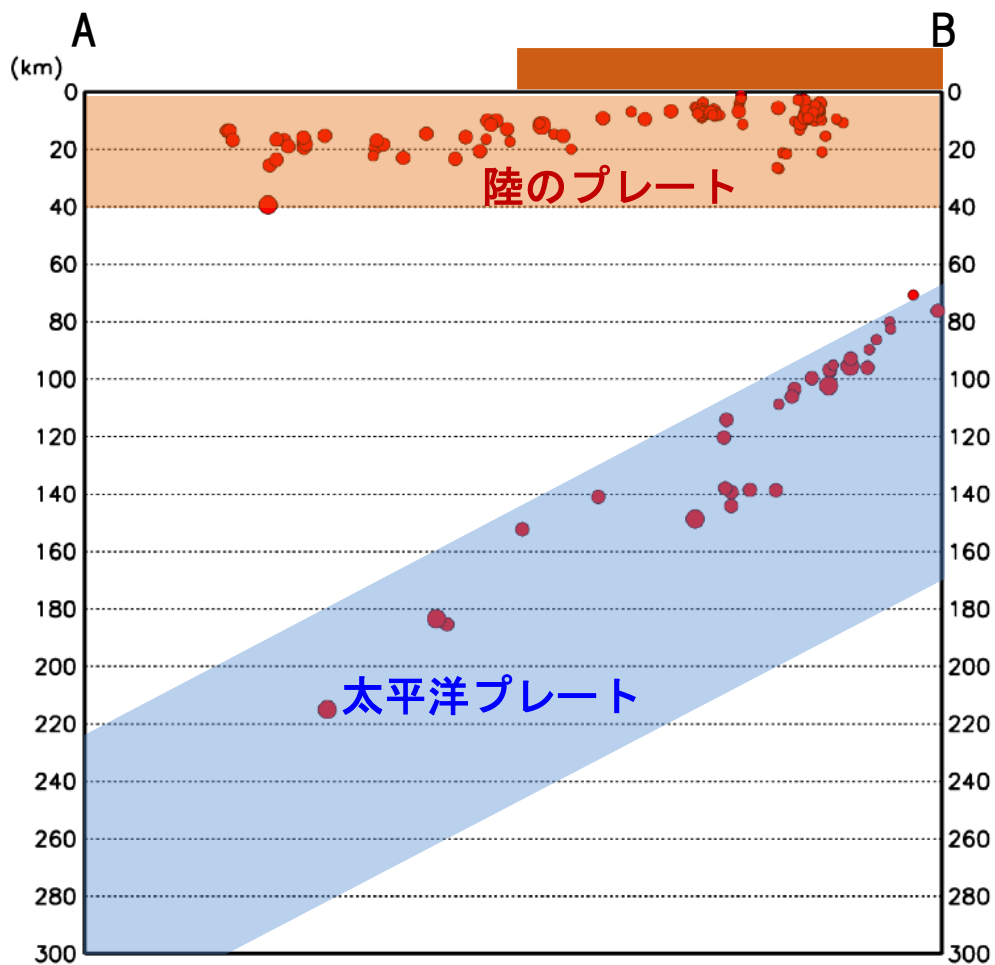
※山形県の各地の震度の詳細は、別紙「山形県で震度1以上を観測した地震の表」を参照。なお、震源要素等は、再調査により変更することがある。

【震央分布図】



【断面図】

断面図は震央分布図内の震源を直線 A-B(太平洋プレートの沈み込む方向)に投影したものである。



※太平洋プレート及び陸のプレートの位置は、地震発生状況を考慮して描いた大まかなものである。

※ は陸地の大まかな位置を示している。

※陸地から離れた海域ほど、震源の深さ精度は良くない。なお、沖合いの地殻内で発生する地震の震源は、実際はより浅いものが多いと考えられる。

山形県で震度 1 以上を観測した地震の表

※今後の精査により、震源や震度のデータが追加されることがある。

期間 2025年 8 月 1 日～2025年 8 月31日

発 震 時	震 央 地 名	北 緯	東 経	深 さ	規 模
各地の震度					
2025年08月14日04時13分	茨城県沖	36° 27.3' N	141° 05.1' E	47km	M5.2
山形県	震度 1 : 上山市河崎＊ 山辺町緑ヶ丘＊ 中山町長崎＊ 米沢市駅前 米沢市アルカディア 南陽市三間通＊ 高畠町高畠＊ 白鷹町荒砥＊				
2025年08月22日07時34分	宮城県沖	38° 41.0' N	142° 14.5' E	43km	M5.6
山形県	震度 2 : 中山町長崎＊ 尾花沢市若葉町＊ 震度 1 : 鶴岡市道田町＊ 鶴岡市藤島＊ 酒田市亀ヶ崎 酒田市宮野浦＊ 酒田市飛鳥＊ 酒田市山田＊ 酒田市本町＊ 三川町横山＊ 遊佐町遊佐 遊佐町舞鶴＊ 庄内町狩川＊ 庄内町余目＊ 新庄市東谷地田町 新庄市堀端町＊ 新庄市住吉町＊ 最上町向町＊ 舟形町舟形＊ 真室川町新町＊ 大蔵村肘折＊ 大蔵村清水＊ 鮭川村佐渡＊ 戸沢村古口＊ 山形市緑町 山形市薬師町＊ 寒河江市西根＊ 寒河江市中央＊ 上山市河崎＊ 村山市中央＊ 天童市老野森＊ 東根市中央＊ 山辺町緑ヶ丘＊ 河北町西里 河北町役場＊ 西川町海味＊ 山形朝日町宮宿＊ 大江町左沢＊ 大石田町緑町＊ 米沢市駅前 米沢市アルカディア 米沢市金池＊ 南陽市三間通＊ 高畠町高畠＊ 山形川西町上小松＊ 白鷹町荒砥＊				
2025年08月29日04時54分	茨城県沖	36° 39.5' N	140° 59.0' E	88km	M4.5
山形県	震度 1 : 上山市河崎＊				
2025年08月30日01時29分	宮城県沖	38° 26.6' N	142° 12.0' E	41km	M5.8
山形県	震度 3 : 中山町長崎＊ 震度 2 : 鶴岡市藤島＊ 酒田市亀ヶ崎 酒田市飛鳥＊ 酒田市山田＊ 酒田市本町＊ 三川町横山＊ 遊佐町遊佐 遊佐町舞鶴＊ 庄内町狩川＊ 庄内町余目＊ 新庄市東谷地田町 最上町向町＊ 舟形町舟形＊ 真室川町新町＊ 大蔵村肘折＊ 大蔵村清水＊ 戸沢村古口＊ 寒河江市西根＊ 寒河江市中央＊ 上山市河崎＊ 村山市中央＊ 天童市老野森＊ 東根市中央＊ 山辺町緑ヶ丘＊ 河北町西里 河北町役場＊ 山形朝日町宮宿＊ 大江町左沢＊ 尾花沢市若葉町＊ 大石田町緑町＊ 米沢市駅前 米沢市アルカディア 南陽市三間通＊ 高畠町高畠＊ 山形川西町上小松＊ 白鷹町荒砥＊ 震度 1 : 鶴岡市馬場町 鶴岡市温海川 鶴岡市道田町＊ 鶴岡市羽黒町＊ 酒田市宮野浦＊ 酒田市観音寺＊ 遊佐町小原田 新庄市堀端町＊ 新庄市住吉町＊ 山形金山町中田 山形金山町金山＊ 鮭川村佐渡＊ 山形市緑町 山形市薬師町＊ 山形市旅籠町＊ 西川町海味＊ 米沢市金池＊ 長井市本町＊ 山形小国町岩井沢 山形小国町小国小坂町＊ 白鷹町黒鴨 飯豊町上原＊ 飯豊町椿＊				
2025年08月30日01時50分	福島県沖	37° 18.0' N	141° 36.2' E	44km	M4.9
山形県	震度 1 : 上山市河崎＊ 中山町長崎＊ 米沢市アルカディア 南陽市三間通＊ 高畠町高畠＊ 白鷹町荒砥＊				

(注) 地震の震源要素等は、再調査により変更することがある。
各地の震度は山形県のみを示し、＊は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の観測点である。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。

遠地地震・火山噴火による津波について

2025年9月19日にカムチャツカ半島付近でM7.8の地震が発生した際に「遠地地震に関する情報」が発表されました。また、8月2日、インドネシアのレウオトビ火山噴火の際にも「遠地地震に関する情報」が発表されています。今回は遠地地震によって気象庁から発表される情報や火山噴火に伴い発生する現象と特徴について見ていきましょう。

遠地地震に関する情報について

「遠地地震」は国外で発生した地震のことをいいます。その中でも、M7.0以上の地震が発生した場合や、都市部などに著しい被害が発生する可能性のある地域で地震を観測した場合などに地震の発生から30分程度をめぐに「遠地地震に関する情報」として、地震の発生時刻、震源およびその規模、日本や国外への津波の影響や観測状況について発表しています（図1）。



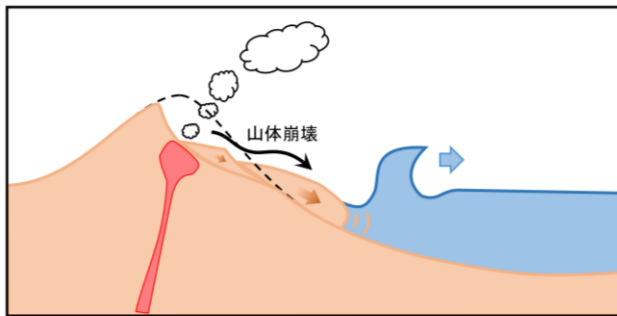
図1 遠地地震に関する情報の例（気象庁HP:カムチャツカ半島付近での地震）

火山噴火に伴い発生する津波について

津波は地震だけでなく火山噴火によっても発生する可能性があります。これは、噴火時に起こる山体崩壊や、気圧波が原因です（図2）。中でも、気圧波に伴う津波は、火山周辺の観測点の潮位変化だけでは判断できません。その為、火山周辺の観測点で潮位変化が

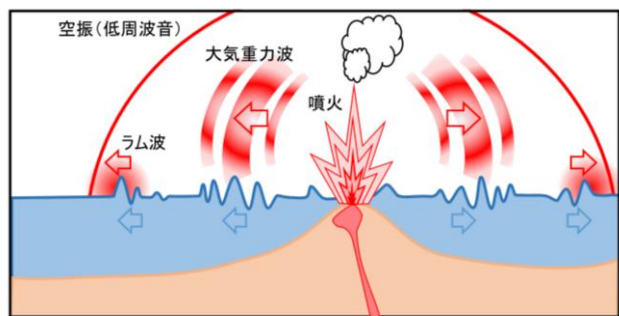
見られない場合であっても、気圧波のうち伝わる速度が相対的に遅い「大気重力波」が日本列島を通過するのを待って、「津波の心配はない」旨の情報を発表します。

■ 火山活動による山体崩壊に伴う津波



火山噴火 → 山体の崩壊 → 潮位の変化

■ 大規模噴火による気圧波に伴う津波



火山噴火 → 気圧波の発生 → 潮位の変化

図2 火山噴火によって発生する津波の原理

海外で大規模噴火が発生した場合には、「遠地地震に関する情報」を用いて火山噴火等に伴う潮位変化が観測される可能性がある旨を発表しています（図3）。その後、国内で潮位変化を観測し、観測値が津波警報・注意報の基準を超えた場合には、津波警報等を発表します。

過去には、2022年1月15日に発生したフンガ・トンガーフンガ・ハアパイ火山噴火において噴火発生から約11時間後に津波警報・注意報を発表しました。この噴火で、鹿児島県で134cmの津波を観測するなど、日本の各地で津波が観測されました。

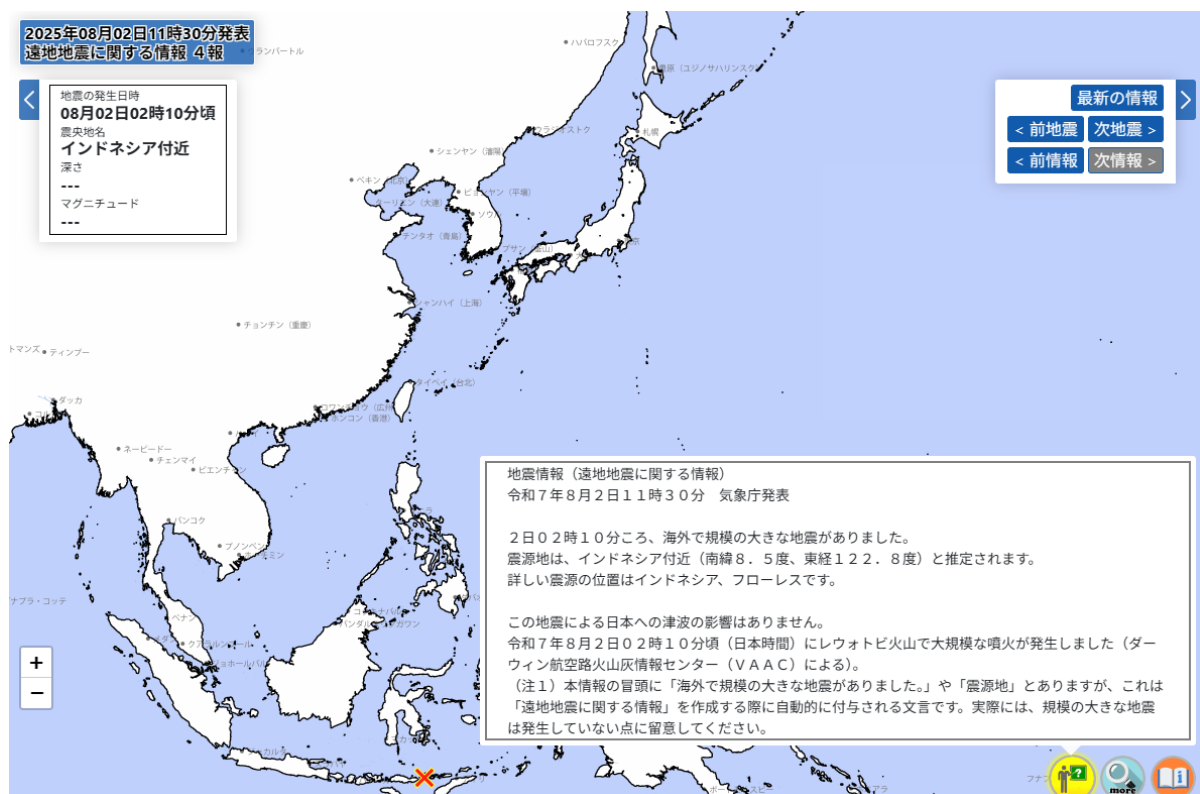


図3 遠地地震に関する情報の例（気象庁HP：インドネシアのレウオトビ火山噴火）

遠地津波とは

「遠地津波」とは遠地地震に伴う津波のことを言います。一般的に津波は、発生源から遠ざかると影響は小さくなりますが、非常に大きな津波の場合、はるか遠くまで伝わって大きな被害をもたらすことがあります。

また、遠くからやってくる津波は、途中の海底地形や陸地の影響を受け反射・散乱を繰り返しながら複雑に変化し、長時間継続する他、複数の波が重なって著しく高い波となることもあります。さらに、近海で発生した津波と同様に、岬の先端やV字型の湾の奥などの特殊な地形では波が集中して高くなります（図4）。

気象庁は遠地津波に関しても、津波が到達する概ね2時間前までに津波警報等を発表します。ただし、今年7月30日のカムチャツカ付近の地震による津波のように、2時間以内に日本に津波が到達するような場合は、速やかに津波警報等を発表します。

火山現象に伴い発生する津波の場合でも、津波警報等が発表された場合の取るべき行動は地震による津波の場合と変わりません。遠く離れた外国で発生した津波でも油断せずに**日頃から備えを行い、海や川から離れて高台や津波避難タワーなどの安全な場所に逃げ、津波警報等が解除されるまで避難行動をとり続けて下さい。**

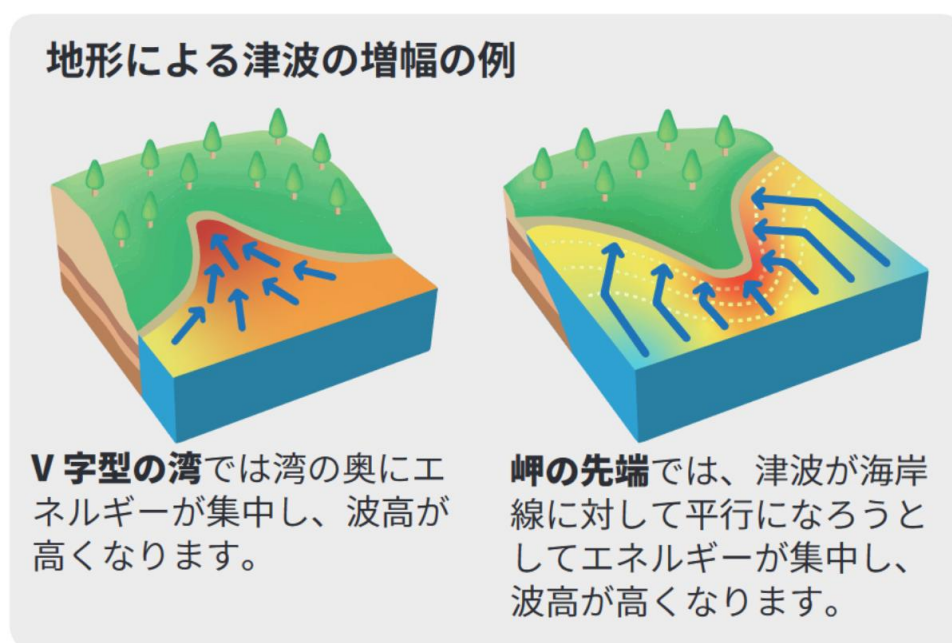


図4 地形による津波の増幅の例